

四三九九番

海原うなはらに

かすみ

霞かすみたなびき

鶴たづが音ねの

悲かなしき夕よひは

国边くにへし思おもほゆ

四四〇〇番

家思いへおもふと

眠いを寝ねず居をれば

鶴たづが鳴なく

葦边あしへも見み

えず 春はるの霞かすみに

四四〇一番

韓衣からころむ

裾すそに取り付つき

泣なく子こらを

置おきてそ来き

ぬや 母おもなしにして